J-SCORE に入会して思うこと

橋本 浩行

本年 2 月の定例講演会で「小型多色カメラによる可視化ソリューション」について発表し、翌 3 月から J-SCORE の賛助個人会員となりました橋本浩行です。今回、松井代表理事からのリクエストもあり、会員の声を寄稿することになりました。私は大手電機メーカーで研究開発と新規事業の立ち上げを担当し、昨年 8 月の 60 才定年後は技術コンサルタントの仕事をしています。50 才を過ぎたころから定年後はそれまでの経験を生かした仕事をし、効率的に稼いで時間を作り、社会貢献や趣味に充てたいと思っていました。結論から申し上げますと J-SCORE に入会して今後の仕事や社会貢献、健康維持などについて道筋が見えた気がしています。まずはいろいろとお世話になっております松井代表理事、藤川副代表理事、松下理事、森岡理事に感謝申し上げます。ここでは私が日頃思っていることや絶滅危惧種の保護活動などについてご紹介したいと思います。

日本の産業界はバブル崩壊後に景気が長期にわたり低迷しました。不良債権処理に手間取っただけでなく、少子高齢化、長期ビジョンやリーダーシップの欠如、ダイバーシティへの取り組みの遅れ、社会システムの硬直化、情報産業の遅れなど様々な原因が挙げられます。これらの中で、私自身の仕事にも関わる人工知能を含む情報分野について私見を述べたいと思います。この分野で日本は周回遅れの状況ですが現在のコロナ禍による社会の変化はチャンスでもあります。社会システムや産業のデジタル化を一気に進めプラットフォームができ上がれば日本の優秀なインプットデバイスや質の高い教師データの特長が生きるようになると思われるからです。そのためには日本人全体に欠けている統計学的思考を強化する必要があります。アメリカ人の知人と話をすると文系、理系を問わずいろいろな数字が出てきます。大谷選手が活躍するメジャーリーグベースボールでも個人成績を表すのに様々な数値指標が用いられています。アメリカ人は数字が好きなのでしょう。だからこそ、統計に基づく大局的な判断ができる人が多いのだと思っています。その点、日本人はすぐに細部の議論に移ってしまう傾向があります。人工知能は今後も進化し、2045 年には人類の知能を超える転換点‘Singularity’を迎えると言われており、今後は人工知能と人間の共存共栄も大きなテーマになると考えられます。科学や産業の分野における人工知能の進化は現在の延長である程度予想できますが、例えば感情コミュニケーションといった人間関係に人工知能が入ってくるとややこしくなります。日本人は空気を読む力が世界でナンバーワンと言われていますので上記の共存共栄でも力を発揮できるのではないかと思います。

少子高齢化についても触れますと、生産年齢人口の減少によって、国内需要の減少による経済規模の縮小、労働力不足、我が国の投資先としての魅力低下による国際競争力の低下、医療・介護費の増大など、主に負の面が叫ばれています。しかし日本における少子高齢化は豊富な知識や経験を持つシニアが数多くいることも意味しています。活力のある日本を創

り、地域を活性化するためには次世代を担う若い方々の力は当然必要ですが、シニア世代が頑張ることも必要と思います。これは正に J-SCORE の設立趣意書が謳っていることであり私が会員となった理由でもあります。なお、私の仕事の一部は J-SCORE 経由で得たものであり、この点でも入会してよかったと思っています。

話は変わりますが、自宅の裏山に絶滅危惧種のキンランが群生しており、ここに宅地を造成する計画が具体化したことから 3 年前に隣家と協力して裏山約 200 坪を購入しました。キンランは樹木、菌根菌と共生する菌従属栄養植物であり（菌根の世界、築地書館）、4 月下旬に綺麗な花を咲かせます。裏山を購入後、改めてキンランについて調べたところ、千葉大学教育学部の大和政秀教授がキンラン研究の第一人者であることがわかり、早速大和先生にコンタクトをとってキンランの保護についてご指導を受けました。3 年間の保護活動によりキンランの株数は約 3 倍となり、本年は 60 を超えました。本年 8 月には J-SCORE 内にキンラン保護研究会（非営利）を設け、大和先生が技術顧問、松井代表理事が特別顧問、藤川副代表理事が経理担当、私が研究会会長として保護活動を推進することになりました。このように絶滅危惧種の保護活動においても J-SCORE にお世話になっています。なお私は 2016 年から 5 年間、千葉大学の客員教授を兼任し集中講義を担当しました。大和先生とは千葉大学繋がりでもあります。

社会貢献の範疇には入りませんが、昨年 4 月からは千葉大学工学同窓会の会長も引き受けています。（上記の客員教授も含め千葉大学関連の仕事は無報酬で引き受けていますので個人的にはボランティアと思っています。）毎年 12 月に同窓会会報を発行しており、本年度の会長挨拶の中で J-SCORE と松井代表理事を紹介する予定です。この記事が J-SCORE の会員増に繋がればよいと思っています。なお昨年寄稿した会長挨拶が以下に掲載されていますので関心のある方はご覧ください。

https://chiba-kougaku-dosokai.jp/?page_id=11

以上、随筆のような文章になってしまいましたがご容赦ください。

橋本浩行
SISup（シサップ）代表
J-SCORE シニアコンサルタント